戦争の時代 -日本スポーツの躍進 についても触れて-



渡島医師会 向井クリニック 前 井 党 彦

2023年は日本のスポーツが躍進する1年でした。 3月に野球のWBC(ワールドベースボールクラ シック)で優勝。

攻守に大活躍した大谷選手は文句なしのMVPでした。

8月の陸上の世界選手権ではやり投げの北口選手が金メダルを獲得。

今やテレビ番組で引っ張りだこになっています。

8~9月の男子バスケットボールワールドカップではアジアの中で最上位となり、47年ぶりに自力でパリ五輪の出場権を獲得しました。

 $9 \sim 10$ 月の男子ワールドカップバレーでも日本はグループ 2 位となり、パリ五輪出場を決めました。

9~10月に行われたアジア大会では女子サッカーのなでしこジャパンが2軍レベルの選手を多く出場させながら圧倒的な強さで優勝。同じく男子サッカーはU-22メンバーでのぞみ、決勝で惜しくも韓国に敗れ準優勝でした。しかしA代表は2022年のワールドカップでドイツとスペインに勝ち、2023年の9月にもドイツに勝ち、なんとドイツに2連勝という快挙を成し遂げました。

よく「サッカーは血を流さない戦争だ」といわれます。

実際イギリスとアルゼンチンがフォークランド紛争で揉めていた頃、1986年のワールドカップでは準々決勝のアルゼンチンVSイングランド戦でアルゼンチンのキャプテンのマラドーナが有名な神の手ゴールと5人抜きドリブルでゴールを決めてイングランドを下し、アルゼンチン国民は拍手喝采したといわれています。

2026年の男子サッカーワールドカップはすでにアジア2次予選が始まっています。2026年はカナダ・アメリカ・メキシコの3か国共同開催で、出場国も32か国から48か国に増えるので日本も最低限出場はできるものと思っています。

しかし問題は決勝トーナメントでの勝利がまだな いという点です。

2026年は決勝トーナメントでも勝ち進み、是非ベスト4やベスト8に入ってほしいものです。

さて長かった新型コロナウイルスと人類の戦争はどうにか収束に向かっているようです。

それに比べて人間同士の争いは非常に長期間にわ たります。

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は

当分終わる気配がありません。

2023年10月から始まったイスラエルとパレスチナ (ハマス) 戦争はなんと3000年も前から紛争の火種 がくすぶっていたそうです。

戦争というのは互いに相手の主張する正義を否定 し、自分たちの正義を最後まで主張するので、落と しどころがなくなかなか終わらないそうです。

正義を主張するのは指導者たちでしょうが、可哀 想なのはあまり関係のない戦争被害者だと思います し、それがまた新たな憎悪を生むことにつながって いると思います。

中国は虎視眈々と台湾を狙っていますし、もしか すると沖縄も?という噂もあります。

ロシアは北海道も狙っているとまことしやかに囁 かれています。

北朝鮮は皆さんご存じの通りミサイルを打ちまくっています。

このような状況では一歩間違うと至るところで紛争または戦争が起き、考えたくありませんがもしかすると第三次世界大戦が起こってしまうのではないかと心配しており、起こらないことを切に願っています。



当院診察室に掲げたウクライナの国旗です